01

Liu, Chen-Chun

『あの山のすべてについて語りたい（仮訳）』

『我所告訴你關於那座山的一切』—劉宸君
The Mountain I'd Share, With You

TAIWAN LITERATURE AWARDS

2017年の春、友人と共にインドからネパールに向い登山を試みた劉宸君は大雪に見舞われ山中の洞窟で何日も救援を待つことになってしまう。47日目に救助された時、劉はすでに息を引き取ってから3日経っていた。劉が肌身離さず持っていた旅の手記と親友への手紙は生き残った友人が持ち帰ることになった。

劉宸君は旅に対するのと同じ真剣さで著作に向き合おうとする。移りゆく世界の中で絶えず真実の世界を求め、著作本能に従ってひたすらペンを走らせている時にも、冷静な思考が止むことはなかた。劉は、自分にはものを書く能力と資格があるのだろうかという疑念に絶えず悩まされていた。自分が師と仰ぐ小説家、呉明益に「孤独を恐れる人にものを書く資格などあるのでしょうか?」と尋ねたこともあった。「孤独」に対する問いかけは生命の存在意義への思索につながり、ひいては「なぜ書くのか」という命題を提起する。

2017年のインドとネパールへの旅の際に残した手記の中ではすべての力を振り絞ってこれまでの疑念と奥深い自己に向き合っている。劉は自分を円の中心に例え、いわば地図を開くように旅行と著作という方法で命と死の距離を測ろうと試み、山中で人と自然の境界線を見極めようとも努めた。劉の模索は命そのものの純粋さが源泉となっており、手記のほとんどは自分に対するものだが、だからこそ新鮮であり、示唆に富む言葉を見つけることができる。
劉宸君が残した手記は決して一貫性のある、人に見られることを意図した著作ではない。ご遺族の同意を得、劉の親友と出版社が選択して出版に至ったもので、旅行記、詩、手紙、日記などを整理し出版する運びとなった。

Liu, Chen-Chun

劉宸君

1998年7月7日、苗栗県に生まれる。2016年、東華大学中国語学部に入学。2017年1月、友人とインドに向かい2月末にネパールに入りタマン族の住むランタン地区での一か月にわたる登山を計画。3月中旬に季節外れの大雪に見舞われナルチェット・コラの岩穴で身動きできなくなる。同年4月末死去。文学と登山旅行を愛し、中程度の高さの山々を中心に活動していた。

02

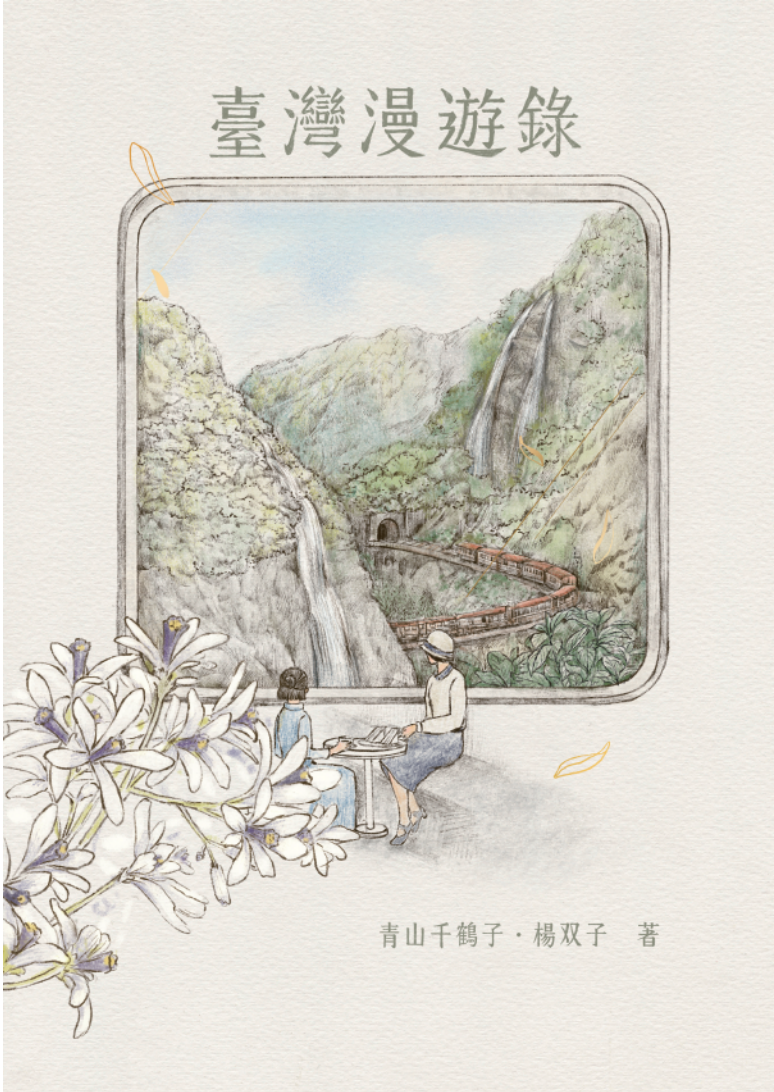
Yang, Jo-Tzu (Yang, Shuang-Tzu)

『台湾漫遊録（仮訳）』

《臺灣漫遊錄》—楊若慈(楊双子)

Remembrance of Things Past in Taiwan

歴史考証に基づき日本統治時代の台湾を描いた小説。



TAIWAN LITERATURE AWARDS

昭和13年（1938年）青山千鶴子の半自伝小説「青春記」に基づいた映画が台湾で上映され大変な人気を博す。当時台湾にあった婦人会である日新会の熱心な招きに応じ、青山は台湾各地で巡回演講を行うことになるが、台湾の旅行中に日新会の推薦で台湾人の王千鶴が通訳となる。この二人は台湾縦断鉄道に乗り沿線の都市を巡る旅に出る。文化も背景も異なる二人は意気投合し、各地のグルメを堪能しながらより相手を深く知るようになり、青山は翻訳家になって独立を目指す王を応援したいと心から願う。

この小説は、食べ歩きで出会うカボチャの種、米粉の麺、コウマのスープ、氷入り密豆などが各章のテーマとなっている。「食べ歩き」の様を呈するこの小説のあちこちでは、人間が造り出す人生観と文化の微妙な味わいの違いが描かれる。

しかしその二人に戦争の足音が次第に迫りつつあった。二人は果たして自分たちの願い通りに生きることができるのだろうか。

青山の目を借り、大日本帝国時代の殖民地台湾、そして日本の「内地人」と台湾の「本島人」の心のひだに触れることができる。また当時の男女の運命の相違や、独立を目指す女性の苦悩も巧みに描かれる。

Yang, Jo-Tzu (Yang, Shuang-Tzu)

楊若慈(楊双子)

二子の姉妹である楊若慈と楊若暉の共用のペンネーム。姉の楊若慈は主に創作を担当、妹の楊若暉は歴史考証と日本語からの翻訳を行い、共同で台湾の歴史恋愛小説を執筆。楊双子の小説には『花開少女華麗島』『花開時節』『華麗島軼聞：鍵』がある。

03

Hsu, Wolf

『安っぽい夢（仮訳）』

《低價夢想》—許哲維（臥斧）
A Nickel's Worth Of Dreams

主人公は客車から投げ出されるほどのひどい鉄道事故で重傷を負い、意識を取り戻した時にはナイトクラブのオーナーの世話になっていた。彼は通常の生活はできるものの自分が誰なのかどうしても思い出すことができない。それでも過去に見た映画や本、聴いた音楽などの記憶は残っており、ほかの人の記憶を読み取るという不思議な能力が身についていた。他人の記憶は読み取れても、自分の記憶はどうしても取り戻すことができない。

安っぽい夢
A Nickel's Worth Of Dreams

ナイトクラブで働く彼はオーナーの依頼で次第に複雑な世界に入り込んでゆく。そして自分の情報や推理を駆使し、バーテンダーや記者の助けを得ながら探偵と刑事のような生活が始まる。その一「砕かれた夢」では失踪したダンサーの行方を追ううちに、都市の背後にうごめく政治と利益の世界が暴かれる。その二「夢が見えたら教えてくれ」はひまわり学生運動を背景にしている。主人公は道で血だらけになって倒れていた外国人労働者の女を助けたことがきっかけになり、外国人労働者連続殺人事件に巻き込まれ、その容疑者となってしまう。孤立無援の主人公は独自で捜査を続け、ついに真相と真犯人が暴かれる。その三「安っぽい夢」で主人公は、小学生の誘拐事件の解決を任されるが、そこに絡んでいるのは敵対する二つの勢力だけでなく、背後に巨大な宗教団体が隠れていることが明らかになる。この捜査を通し主人公はついに自分が誰なのかを知ることになる。

この三部作は現代台湾の都市改造計画、外国人労働者、宗教団体という社会現象にメスを入れる作品となっている。記憶を失った主人公は、アイデンティティ喪失の中から自分の存在の価値と意義を見出そうとする「台湾」そのものを暗示している。

Hsu, Wolf

許哲維（臥斧）

医用工学を学ぶ傍ら出版業界に関わる。やりたい事が多く、睡眠時間が足りない。仕事時間は長いが金にならない。書店、音楽CDショップ、映画館を危険地帯とみなすがしばしば危険を顧みず潜入。著書（括弧内は出版社）：『給S的音楽情書』（小知堂）『塞満鑰匙的空房間』（宝瓶）『雨狗空間』（宝瓶）『温啤酒与冷女人』（如何）『馬戯団離鎮』（宝瓶）『舌行家族』（九歌）『沒人知道我走了』（天下文化）『砕夢大道』（読癮）『硬漢有時軟軟的』（逗点）『抵達夢土通知我』（衛城）『FIX』（衛城）『螞蟻上樹』（馬可孛羅）。人の話をするのは好むが自己紹介を嫌う。

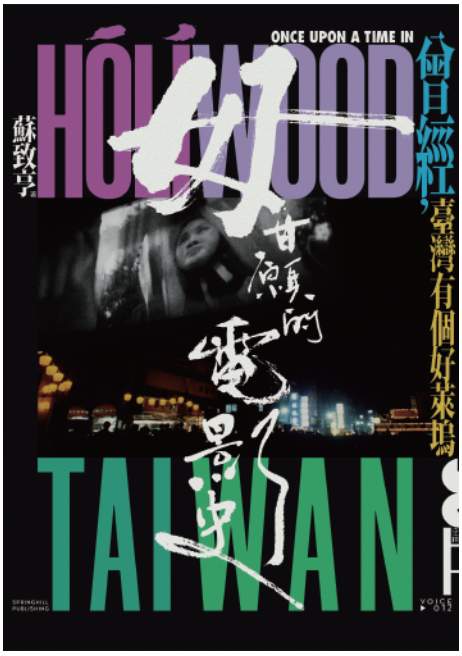
04

Su, Chih-Heng

『非情な映画史：台湾ハリウッドの栄華（仮訳）』

《毋甘願的電影史：曾經，臺灣有個好萊塢》
Once Upon a Time inHollywood Taiwan:
The Life and Death of Taiwanese Hokkien Cinema
ー蘇致亨

台湾語映画の黄金時代は台湾オペラとも呼ばれる伝統芸能「歌仔戲」の映画化が契機として始まった。若い映画監督やカメラマンは前途洋々、実力が物を言う時代の幕開けだった。青少年は映画スターを目指し、養成学校の希望者は後を絶たなかった。当時、北京語の映画は「金馬賞」にすべて落選、台湾語の俳優が賞を総なめした。台湾のハリウッド、台北・北投ではピーク時に一週間に3作もの台湾語映画が製作された。今では想像も及ばない時代があったのだ。



非情な映画史：台湾ハリウッドの栄華

Once Upon a Time in Hollywood Taiwan:
The Life and Death of Taiwanese Hokkien Cinema

まるで童話のような時代は1950年代中期から始まったが、70年代に急速に衰退し元に戻ることはなかった。作者、蘇致亨はその原因は何だったのかという台湾映画史における長年の謎にメスを入れた。

この作品は新世代の読者を古き良き時代に連れて行ってくれる。台湾語映画の制作現場、関係者の夢やこだわり、そして失望が語られる。

作品の中では、映画製作に欠かせないフィルム、そしてカラー映画技術という視点から、台湾語映画の衰退の二大原因（粗悪映画の乱発、政府による北京語運動）の是非が再検討される。台湾語映画界の構造上の問題や東アジアの政治的変化の渦の中で、台湾映画がいかに独特の道を歩んできたかが論じられる。

これは単に台湾語映画史だけでなく、戦後の台湾文化の歴史を検証する作品なのだ。

春山出版有限公司 Spring Hill Publishing

Su, Chih-Heng
蘇致亨

蘇致亨、1990年生まれ。国立台湾大学社会学部、戯劇学部を副専攻し卒業。国立台湾大学社会学大学院修士。修士論文「台湾語映画史の再考：モノクロフィルム、カラー技術転換、国民党文化政策」は文化研究学会、台湾教授協会、台湾科学技術・社会研究学会、国立台湾文学館による台湾文学傑出修士論文など多数の賞を受賞。研究論文は『Fa映画鑑賞』誌の学術記事、また『中国語映画ジャーナルJournal of Chinese Cinemas』誌に掲載。著書：『毋甘願的電影史：曾経，台湾有個好萊塢』(2020，春山出版)。

05

Tsai, Shian-Zen

『太陽の羊（仮訳）』

《日光綿羊》 ー蔡翔任
The Daylight Sheep

蔡翔任の初めての詩集『太陽の羊』は生きることの意味を突き詰めた思索と表現の結晶である。硬い岩の割れ目から水がにじみ出るように思いが言葉に結実する。苦しくなるほど詩に思いを託したいという願いが発露する。

太陽の羊
The Daylight Sheep

詩は3部から成っている。1部「言葉の身体回帰」：短い16篇の詩が収録され、スピード感と充実感に溢れた詩となっている。2部「語りかける言霊」：抒情詩と詠嘆詩14篇が収録。形式的には長短の句を織り交ぜた、めりはりとリズム感のある構成になっており、音楽のソナタ型式のように主題とその変奏が繰り返し現れる。

3部「神話の残篇」：これを長篇詩の試行作品と見る人もいれば「開かれた作品」つまり未完成であり、完成することのない作品と見ることもできる。これは言葉を最少に抑えてすべてを新たな視点で捉えている詩だ。どの節にも叙述部があり風化した古代の神話のようだ。意識的に設けられた空白部分は読者が自由に補い創作することができる。ちょうど手編みの作品のように細部に絶えず変化を加え新たな意義を付すことができるのだ。言葉の遊びは未来に通じ現在を開放する。作者はインディアンのシャーマニズムを詩作に織り込み、絶えず変形し転化する開放の詩、そして自由の歌が完成した。

Tsai, Shian-Zen
蔡翔任

蔡翔任、1973年台南生まれ。高雄師範大学英文学部卒業、台湾大学哲学修士、政治大学哲学博士。2017年第4回詩の「蓓蕾賞」受賞。詩は純粋に言葉そのものであるとの信念に基づき、直接的でシンプル、凝結しパワフル、そして清純で細やかな心情を抱いて言葉を探究する。これは回りの事物に無頓着というわけではなく、むしろ事物を深く熟考するスタイルを正しく導き出しているからこそ、捉えどころのなかった対象が一連の主題と変奏という形を取るようになる。作者にとって神羅万象は互いに呼応し模倣する中で「事物、詩の言語、身体感」という三元関係が生まれる。万物の姿が我々の関与により完成するのであれば、詩の言語はその両者を仲介するものとなる。詩という言語により、知らず知らずのうちにアイデアが溢れ、事物の意志に直結することにより事物と自我が共に変化する。これこそが神話の源泉であると作者は確信している

06

『一物顛末記（仮訳）』

《跟著寶貝兒走》黃春明
Follow the Magic Wand

娼館の見張り兼雑用係である郭長根はいつものように館内の娼婦のつまみ食いを楽しもうとしたところ、怒られ大事な一物をぶった切られてしまう。絶望のどん底にあった彼を救ったのは臓器提供による移植手術だった。再び一物を得た彼は天にも上る思いで、ホストクラブのボーイをすることにした。ところがこれが大ヒット、貴婦人たちから引く手あまたとなる。ついに台湾全土を巡る「セックスアート」の巡業に出ることになるが、肉欲と金銭欲にまみれた世界に深く踏み込むにつれ、常軌を逸した悲喜劇が始まる。

Follow the Magic Wand
—物顛末記

TAIWAN LITERATURE AWARDS

黄春明は多年の休止の後、再び創作活動を始めたが全く装いを新たにして再登場した。ユーモアだけでなく下卑たジョークも交え、誰もが語らなかった性の世界を語り、笑いの中にも社会の闇を的確に捉える。この小説は臓器移植の倫理的な問題、性別による権力の乱用、メディアによる暴力、芸術界の皮肉、貧富の格差が広がる中で富裕層の若者たちの迷走などに対し作者の鋭い洞察を見せる。黄春明は深い同情の念を持つからこそ、疑問を提起するのだ。

Unitas Publishing Co., Ltd.
聯合文学出版社股分有限公司

黄春明

Huang, Chun-Ming

宜蘭県出身。小学校教師、記者、広告企画、演劇監督などを経験。著作の傍ら、歌仔戯（台湾オペラ）と児童演劇の制作も行う。呉三連文学賞、国家文芸賞、時報文学賞、東元賞、噶瑪蘭賞、行政院文化賞、総統文化賞などを受賞。『九弯十八拐』誌の発行者と黄大魚児童劇団団長を務める。作品には、小説『看海的日子』『児子的大玩偶（邦題：坊やの人形）』『莎喲娜啦・再見（邦題：さよなら・再見）』『放生（邦題：放生）』『沒有時刻的月台』、エッセイ『等待一朵花的名字』『九弯十八拐』『大便老師』、童話絵本『小駝背』『我是猫也』『短鼻象』『愛吃糖的皇帝』『小麻雀・稲草人』などがある。

07

『儚：恐怖の故事成語（仮訳）』

《儚：恐怖成語故事》許舜傑（林秀赫）
Mara: Horror Stories
Inspired by Idioms

林秀赫の小説は、蛍に導かれて見つけた密室の死体、大人気の人肉石鹸、孤独死を予知する老人の村、瓶の中に住む美少年、台北を襲う「おならインフルエンザ」、二度と愛せない猫など、ホラーとファンタジーが入り混じり、さらに推理、ブラックユーモア、サプライズなどの要素が加味されている。ストーリーは紆余曲折を繰り返し、現実と虚構の境界線が曖昧になってしまう。正に「ホラー・リアリズム」の具現だ。人々の生活の中に閉じ込められている誤解と傷、欲望と絶望、愛と孤独、エゴイズム、絶望、死などが、終末の予言を通して目覚めさせられることになる。

『儚』は強い疎外感、混沌、不可解さ、スピード感、そして意外性を描写する。この手法は、暴力や死、血なまぐささについて語るよりもより深刻な形で人間性や運命について考えさせるものとなる。

Unitas Publishing Co., Ltd.
聯合文学出版社股分有限公司

Mara: Horror Stories Inspired by Idioms
儚：恐怖の故事成語

TAIWAN LITERATURE AWARDS

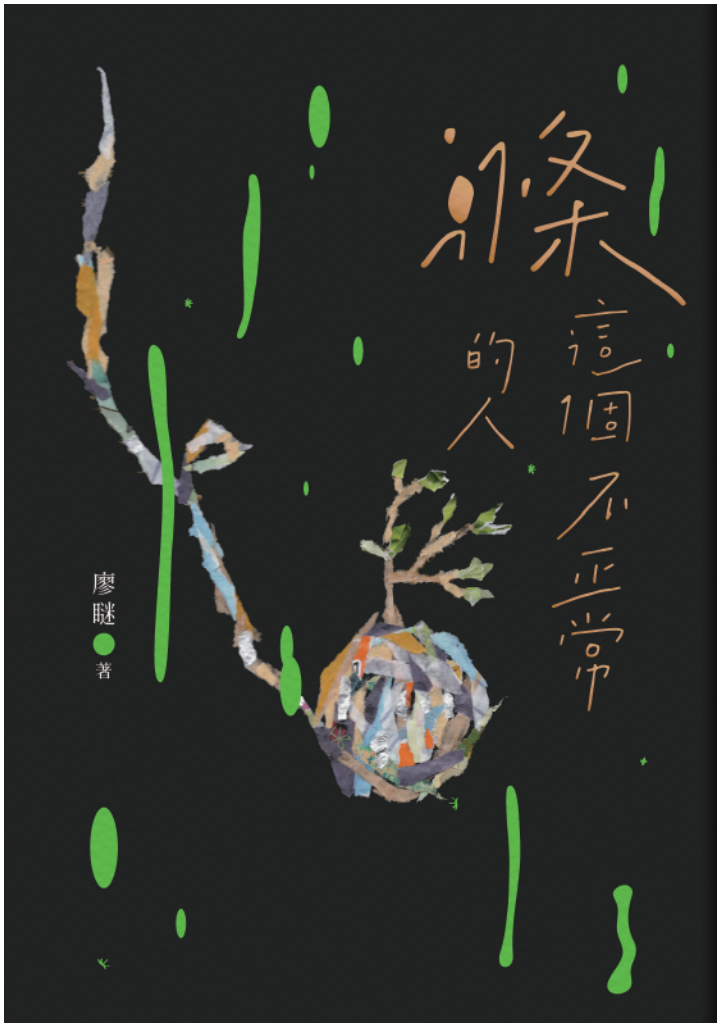
許舜傑（林秀赫）
Lin, Sho-Her

1982年の冬に生まれる。2016年、呉濁流文学賞長篇小説最優秀賞を受賞。作品に長篇小説『嬰児整形』『老人革命』『五柳待訪録：陶淵明別伝』、短篇小説集『深度安静』がある。現在、国立台南大学で現代文学と流行文化の研究を行っている。
2019年に著作の場を求めて台北から子供時代を過ごした台南に移転する。台湾文学館のカフェCHEFFRESHでの創作を愛する。レトロな室内に差し込む陽光の中、ブラックコーヒーとブラウニーの助けを借り、5月から6月にかけて「詩選劇小説」とも言える「儚」を書き上げた。
これはもしかしたら台湾文学館で完成した初の小説かもしれない。

08

『人とは違う弟、滌（仮訳）』

《滌這個不正常的人》廖怡君（廖瞇）
My Brother in the Room



第20回台北文学賞受賞作品。
作者廖瞇の弟である滌（ディ）は大学卒業後失業し、決まった時間に外出する以外は自宅でほぼ引きこもっている。感覚が異常に敏感なため人込みやエレベーターを避け、公共交通機関を利用することもない。鋭敏な感覚と潔癖症で苦しむ引きこもりである。コントロールフリーク、すねかじりとも呼ばれる輩だ。

My Brother in the Room
人とは違う弟、滌

作者は弟のとの会話を試み、弟だけでなく、長年じっと耐えて息子に尽くす母親、温厚だが愛を表現できない父親との会話を記録する。滌の謎に包まれた心の世界、両親の複雑な心境だけでなく、自分の反省や治癒の過程も綴られる。

この書はまさにドキュメンタリーそのものだ。文学賞の書評はこう述べる。「本作品では非常態のプライベートな世界が描かれている。リアルな心情の吐露は多くの読者の共感を誘う。」作家、盧郁佳はこう評する。「本書は飾り気のないシンプルな文体で、読者の心に鮮明な画像を投影する。まるで静かな北欧映画を見ているようだ。次々に現れる疑念、詩的とも言える神秘性は一種の魔性をも備えており、本を置けなくなる。」

TAIWAN LITERATURE AWARDS

Yuan-Liou Publishing Co., Ltd.
遠流出版事業股分有限公司

廖怡君（廖瞇）
Liao, Mi

大学では製品設計とジャーナリズムを7年間専攻する。
『玩詩合作社』を知り「フィルム詩」の創作を始める。「衛生紙+」と出会い詩作を続ける。
2015年に詩集「沒用的東西」を出版。
2019年に『滌這個不正常的人』が台北文学賞を受賞。
人生のすべての経験が創作の力となると信じている。
台湾東部在住、教職の傍ら著作を行う。

09

『輝きは消えない -廖偉棠2017-2019詩選（仮訳）』

《一切閃耀都不會熄滅--廖偉棠2017-2019詩選》
The Lights in the Darkness

この作品には廖偉棠が2017年から2019年までに作った詩136篇が収録されている。その多くは組詩で廖が撮影した示唆に富む5枚の写真も収められている。詩を30年近く書き続けている廖のこの詩集には古典詩もあれば現代詩もある。国と家族への思い、本格的なものから実験的なものまで種々の作品に共通して溢れる思いが表現されている。

詩で様々な思いを人々と共有できる。詩は冒険する。そして証言し消えることはない。

都會滅不熄

一切

The Lights in the Darkness Will Not Die Out
輝きは消えない

香港とこの不完全な世界に捧げるラブレター
行いては到る詩の窮きわまる処、坐しては看る雲の起こる時
この世界には詩より大切なものもある
輝きがそれだ、叫びもそうだ
詩は消えない沈黙
熱く燃えさかる暴雨
この世界への愛を思い余すことなく激しく燃やしてくれる

ThinKingDom Media Group Ltd.
新経典図文伝播有限公司

TAIWAN LITERATURE AWARDS

廖偉棠
Liu, Wai-Tong

香港の詩人、作家、写真家、現在台湾に在住。香港文学双年賞，台湾時報文学賞，聯合報文学賞、香港芸術発展賞（2012年度最優秀芸術家・文学）を受賞。
詩集『和幽霊一起的香港漫遊』『野蠻夜歌』『八尺雪意』『半簿鬼語』『春盞』『桜桃与金剛』『後覚書』、小説集『十八条小巷的戦争遊戯』、エッセイ集『衣錦夜行』『有情枝』、写真集『孤独的中国』『巴黎無題劇照』『尋找倉央嘉措』『我城風流』『微暗行星』、評論集『波希香港•嬉皮中国』『遊目記』『深夜読罷一本虚構的宇宙史』『反調』『異托邦指南』シリーズを出版。

10

Chen, Chang-Yuan

『作業記録（仮訳）』

《工作記事》陳昌遠
Working Time

「詩集が圧縮機なら、心への問いを入れたい。」

ブルーカラーの詩、運命のブルース
時間は泥のように襲い掛かる
遠方の音、心臓の鼓動が聞こえない
でもポケットには、スパナだけじゃなく
紙とペンもある。

Working Time
作業記録

時報文学賞の受賞者、陳昌遠の初めての詩集『労働者之歌』には労働者階層の心情がうたわれている。これは押し寄せる生活の疲れ、そして機械の噪音の中で虚と実を切り換え、立場を交換できる叙事組詩である。

命は詩そのもの、悪を超越して咲く花だ。騒音でさえも意味を持つリズムとなる。詩人は労働者としてミリと秒を単位とする生産現場の合間を縫い、言葉を紡ぎ、自分を見つめる。都市と農村、富と貧困、そして人生の明暗について思索する。組詩は精密機械のメカニズムのように篇ごとに規則的な変化を見せ、寂寞と孤独を生産する。現実の環境と精神世界の狭間に生きる人間は分解や組み立てができる部品のようだ。『作業記録』は消え去ろうとする思いを書き留めたメモであり、傷みの限界への挑戦でもある。低くうなる旋律が聞こえてくるはずだ。

TAIWAN LITERATURE AWARDS

Comma Books
逗点文創結社

陳昌遠
Chen, Chang-Yuan

1983年、高雄市小港生まれ、中正工業高校建築科卒業。建築現場の肉体労働者、カードローンの電話取り立て人などを経験。読み物が好きで、中国時報高雄印刷工場で10年間印刷技術者として働くが、リストラに遭い、労働組合のストライキにも失敗する。白い新聞用紙に詩を書き、一定の噪音の中で思索することを好み、次にどの文字を使うか、どの語句で継げばよいのかの作業に没頭する。人も機械のように分解や交換が可能で、機械も人のようにそれぞれの個性を持っていると信じ、人は職場では機械のように規則に制約されると考える。詩作に当たり、詩人余光中からは言葉の持つリズムを、羅智成からは詩的世界観を、林燿德からは詩の構造を多く学んだ。またロラン・バルトの恋愛のディスクールからは分解と再構築を学習した。作品はインターネット掲示板で発表する。2017年に職を辞し台北でジャーナリストとなるが、精神労働の方が肉体労働より身心への害が大きいことを知る。悩み苦しむ時には詩作で現実逃避を図るが、時に工場にいる夢を見る。中国時報新詩評賞、楊牧詩賞を受賞。

11

Wu, Jun-Yao

『重慶の潮汐（仮訳）』

《重慶潮汐》吳鈞堯

A River Flows Through Chongqing South Road

「重慶」は場所を表している。遠くにある地名のようだが、実際には作者に身近な台北・重慶南路の幼獅公司から半径500メートルの版図のことである。そこには開封街、漢口街、武昌街、沅陵街があり、新公園、城中市場、明星咖啡館、中山堂、総統府もある。

「潮汐」とは時の流れのことだ。道路は海のように往来が繰り返される。人と車の流れは一種のエネルギーを生み出し街の変化を促す。手作業の1990年代からデジタル化の21世紀初頭を経、今の新メディアの時代に至るまで重慶南路は時代の変化を目撃してきた。かつて立ち並んでいた書店、台北カメラ街、靴屋通り沅陵街、金石堂書店と現代詩、劉銘伝の伝奇などこの通りにまつわるエピソードが紹介される。

A River Flows Through
Chongqing South Road

重慶の潮汐

TAIWAN LITERATURE AWARDS

作者の職場は重慶南路にあり、そこの17年にわたる変遷を目にしてきた。消えゆく文化の追憶を文字に残したのがこの本である。これはまた作者個人の心の録画でもある。

Unitas Publishing Co., Ltd. 聯合文学出版社股分有限公司

Wu, Jun-Yao
吳鈞堯

金門生まれ。『幼獅文芸』の編集長を務めていたが、現在は著作に専念し、台湾と中国の中国語メディアのコラムを執筆する。作品は『中国時報』『聯合報』の小説賞、梁実秋と教育部の散文賞を受賞。さらに九歌年度小説賞、五四文芸賞（教育・小説）、文化部第35回文学創作金鼎賞も受賞。
著作は多数に上り、金門島の歴史小説『火殤世紀』『遺神』『孿生』、エッセイ集『荒言』『熱地図』『一百擊』『回憶打著大大的糖果結』、童話絵本『三位樹朋友』などがある。

12

Chen, Po-Ching

『絶叫コール（仮訳）』

《尖叫連線》陳栢青

The Bubber Chicken Club

この作品は陳栢青が初めて挑んだ長篇小説である。台湾で致死率の高い伝染病「HLV」が発生する。映画・演劇の専門高校でホラー映画を演じたことのある生徒たちが台湾を救う。高校生活にはホラーより恐ろしい現実があった。

作者は有名なホラー映画『リング』『呪怨』『エルム街の悪夢』『13日の金曜日』などのパロディを用い、いじめの問題やアイデンティティの模索について掘り下げる。また青少年の愛と怒り、友情と裏切り、独占欲と報復、矛盾と衝突が描かれる。
有名ホラー映画からヒントを得つつ、創意に満ちたこの作品は、被害者とは誰なのか、被害者となったその後は、そしていかにして傷を癒すかという問題を考えさせるものとなる。

The Bubber Chicken Club
絶叫コール

TAIWAN LITERATURE AWARDS

Aquarius Publishing Co., Ltd. 宝瓶文化事業股分有限公司

Chen, Po-Ching
陳栢青

1983年, 台中に生まれる。台湾大学台湾文学大学院修了。世界華人青年文学賞、中国時報文学賞、聯合報文学賞、林栄三文学賞、台湾文学賞、梁実秋文学賞などを受賞。作品は『青年散文作家作品集：中英対照台湾文学選集』『両岸新鋭作家精品集』『九歌年度散文選』に収録。『聯合文学』誌により「台湾の40歳以下で最も期待できる小説家」との評価を受ける。過去に葉覆鹿のペンネームで小説『小城市』を出版、九歌両百万文学栄誉賞、第3回世界中国語SF星雲賞銀賞を受賞。エッセイ集『Mr. Adult大人先生』も出版。

13

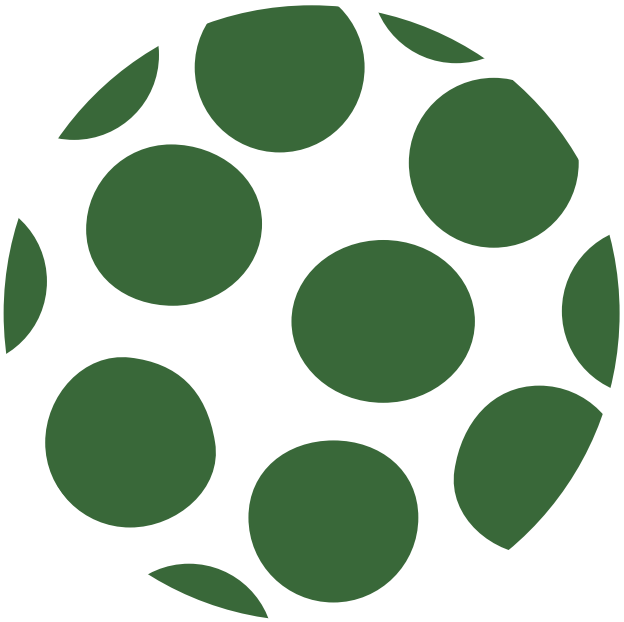
Chen, Ko-Hua

『幽霊入門
—陳克華詩集（仮訳）』

《鬼入門——陳克華詩集》
Ghost ABC

★鬼才の芸術家、陳克華が全霊を込めたテーマ、それは「幽霊」だった。
★幽霊の方が人間よりよっぽどいい。人が死ぬとどうなるのか知りたいとは思わないだろうか。
人間の方が幽霊より恐ろしい生き物だ。
幽霊の方が分かりやすくていい。出る時には見てすぐわかるし、裏で策を練ったり人を陥れようとしたりしない。

作者いわく「父が亡くなった後、父はどこに行ったのだろう、と本当に真剣に考えるようになりました。これという宗教を持たない自分は、家族の死別に直面してはじめて命がいかにはかなく、頼りないものであることを知りました。」
こうした感慨を経た作者は3年にわたり幽霊に関する詩を書き続けた。それがこの詩集に収録されている。神を見出すことができず、良心とは何かを知り得ないならば、少なくとも地獄を覗いてみるがいい。人の世が正に地獄のようだとわかるだろうから。
本書には26篇の陳克華の幽霊の詩と73の呉衍震の幽霊の絵が収録されている。もう一つの世界にいる幽霊たちの表情をじっくり味わってほしい。



Ghost ABC
幽霊入門

TAIWAN LITERATURE AWARDS

Showwe information Co.,Ltd. 秀威資訊科技股分有限公司

Chen, Ko-Hua
陳克華

陳克華（ペンネーム：田自由、克克、陳業）
男、1961年10月4日、台湾・花蓮市に生まれる。本籍は山東省汶上県。
現職：台北栄民総医院眼科医師。
個人ウェブサイト：アスクレピオスの杖
http://www.thinkerstar.com.tw/kc/index-c.html
詩、エッセイ、小説、歌詞を創作、詩風は大胆で変化に富み、題材は多岐にわたる。絶えず少年のような情熱と深い自省の念を抱いて執筆に当たる。そのエッセイと小説は愛と命の思索に満ち、自分と向き合う彼だけの独特の世界に読者を引き込む。
受賞履歴：中国時報叙事詩文学賞、中国時報新詩賞、聯合報文学賞・詩賞などを受賞。『聯副新人月』が全国学生文学賞、金鼎賞最優秀歌詞賞受賞。『沈黙的母親』が 中国時報青年百傑賞（文芸類）、第一回陽光詩賞、中国新詩協会の年度傑出詩人賞、文薈賞を受賞。

14

Chen, Kevin

『亡霊の地（仮訳）』

《鬼地方》陳思宏

Ghost Town

米国の作家、ウィリアム・フォークナーはこう書いた。「『過去』というものは死ぬことはない。『過去』が過ぎ去ることなどないのだ。」

「記憶や痛みは忘れ去ってしまいたい。しかし過去というものは影のようにいつもつきまとう。過去があるところには亡霊がいる。人がいるところには必ず亡霊がいる。あなたも私もすべて亡霊なのかもしれない。」

陳思宏は彰化県の永靖という知る人の少ない小さな町の生まれだった。故郷や知人と決別したいと願った陳は、安らぎを求めて永靖から台北へ、そしてドイツのベルリンにまで逃避行を続ける。しかしそこで誤ってゲイのパートナーを殺害してしまう。出獄し、行くあてのない彼は永靖に戻るほかすべはなかった。
中元節という祭日にはあの世の扉が開かれ、その日に死者の魂がこの世界に戻って来るとの言い伝えがあるが、陳が故郷に戻ったのは正にその日だった。そこで彼は亡霊を見ることになる。
小さな田舎町を背景に、家族の傷と恥、街の秘密、無情な時代の悲劇が少しずつ明らかになってゆく。
亡霊の地に住む人々はどうやって過去とともに生きるのか、そして、なぜこの小さな町が亡霊の地になってしまったのだろうか。

Ghost Town
亡霊の地

TAIWAN LITERATURE AWARDS

Chen, Kevin
陳思宏

1976年、農家の9番目の子として彰化県永靖郷八徳巷で生まれる。輔仁大学英文学部、台湾大学戯劇所卒業。作者は俳優また訳者としてドイツ・ベルリンに在住。
『亡霊の地』は台湾文学金典賞年度百万大賞、金鼎賞を受賞、また台北国際書展大賞の選考対象となる。全国大学生文学賞小説賞、彰化県鉱渓文学賞散文賞、南投県文学賞小説・散文賞、国軍文芸小説金像賞、台湾文学賞小説賞、九歌年度小説賞、林栄三文学賞小説賞を受賞、文建会文学人材育成計画小説創作補助、国芸会常態補助を受ける。作品「橘色打掃龍」と「煙窓先生」は小学5年生の国語の教科書に収録。
出版作品:『指甲長花的世代』(2002)『営火鬼道』(2003)『態度』(2007)『叛逆柏林』(2011)『柏林継続叛逆:写給自由』(2014)『去過敏的三種方法』(2015)『第九個身体』(2018)。簡体字での出版作品『去撒野、在最好的時光裡』(2013)『叛逆柏林』簡体字版。翻訳作品『フリアンは人魚』(中国語版)。
出演映画:『Ghosted』(2009)『Global Player』(2013)。

15

Ma, Kai-Fai

『クズ牌（仮訳）』

《鴛鴦六七四》馬家輝

The Worst Hand Possible

「誰でもクズ牌を手にすることがある。たとえクズ牌であってもゲームを続けるしかないのだ。」－馬家輝

香港の裏社会に生きる男女は最初から勝ち目のないクズ牌を手にして勝負に臨むしかすべがない。
この小説は第二次世界大戦後のイギリス、国民党、共産党が抗争する香港の裏社会を描いたものである。
それぞれが忠義を尽くすべき対象を持ち、善悪、忠義の基準が混沌とする乱世で、阿氷と哨牙炳は相手を裏切らざるを得ない状況に立たされる。
それでも真実を貫こうとする葛藤がテーマとなっている。
生まれや時代がいかに不利なものであろうとも譲れない一歩を死守し、運命を賭する人々がその時代にもいたのだ。

The Worst Hand Possible

クズ牌

TAIWAN LITERATURE AWARDS

Thinkingdom Media Group Ltd. 新経典図文伝播有限公司

Ma, Kai-Fai
馬家輝

1963年生まれ、香港で絶大な人気を呼んでいるコラムニスト。「文学ロックスター」の称号が付与されている。台湾大学を卒業、米国ウィスコンシン大学の社会学博士号を持ち、香港市立大学でメディア理論を教えながら創作活動をしている。『龍頭鳳尾』は馬氏のデビュー小説であり、三部作の最初の作品。

16

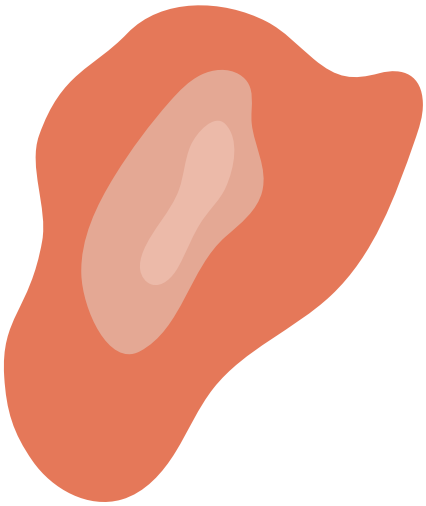
『流刑地にて（仮訳）』

《在流放地》In the Penal Colony
Saki / 張驊 (張紹中)

これは社会の負け組にしか書けない自叙伝にも似た告白である。
実際に経験したものしか描けない社会の裏と、他人には見えないもう一つの世界がここにある。
眼前で父が息を引き取るのを目にしたその日から彼女は高校に行かなくなった。

In the Penal Colony
流刑地にて

その瞬間彼女は「この世界」に入った。
それは地図にもない、複雑怪奇な地下の世界、死んでも失踪しても誰も気に留めない世界だった。
彼女はデリヘル譲もホステスも経験し、あらゆる業界の内と外から残酷な人間性を見た。
薬漬けの世界にも足を踏み入れ、破滅の寸前まで行った。
そして自ら精神病院に赴き、天才と狂気の狭間を行き来して薬を断った。
セールスマン、性産業、薬の売人、統合失調症などを経験した張紹中は、夢見る者が語るかのような独特の筆致で真実と残酷、そして狂気の世界、通常と乖離した社会を再現している。



WATYP PUBLISHING
(XIAOPENGYO CULTURE)
註異文庫(小朋友文化股分有限公司)

Saki

張驊（張紹中）

今年（2020年）29歳になる。名前の「紹」は父が付けてくれたが、その文字の持つ「継承」という意味どおりに生きてはいない。高校を休学し金融商品のセールスマンになるが18 歳で精神疾患を発病し、自暴自棄の生活を 23 歳まで続ける。その後薬物中毒になり、路頭に迷っていたところかつての同棲者に拾われる。26歳で精神疾患と中毒が高じて男と別れ、精神疾患の認定を受け緊急入院と治療を受け中毒を克服する。

作者いわく、「長く会っていなければ、愛情も薄れてしまう。炭は赤く燃え盛った後に灰となる。たった一人のこの身は暖かく孤独だ。」著作に詩集『濁之蓮』（旧名：『在島上』）がある。

儒家を自称し「皆がよければそれでいい」との価値観を持つ。好きな格言は「Praedicare（宣明）」、所属団体の最終目標は「INSTAURARE OMNIA IN INSULAE（島での再構築）」。自己紹介を書けと強制されない時に書く標準的な自己紹介：「私をわかっている人は理解してくれる。私を理解しない人はわからないままでもいい」。現在、台北市立西松高校の学籍を持ち 2021 年の指定科目試験の準備中、教科書と苦手な英語と苦闘中。家庭内性暴力の被害者、薬物販売、薬物中毒、ホステス、援交、統合失調症患者、本当の労働者の妻などを経験。

17

『野想到（仮訳）』

《野想到》Wild is Inspiration
Lee, Chin-Wen / 李進文

「野想到」は詩、エッセイ、寓話、小説、画像、台詞を融合させた何とも定義し難い、いや定義する必要もない文学作品だ。ことばは様々な転化と比喩の中から豊かな生態系を生み出すものだ。
イメージとリズム、そしてストーリーを繋ぎ合わせることで読者の心にある画面を一新する。こうして詩は野生化され、読者は読みながら野生の地を巡り、草むらの中にある詩を見つけ出す。

Wild Is Inspiration

野想到

ごく普通の日常の中にもことばの野生化は可能だ。商品、生活、インターネット、政治、どれも単調さ、多元性、混沌さを備えた実生活の詩なのであり、劇的なユーモアの源泉なのだ。想像力さえあればそこから宝を見出すことができる。

社会との共鳴、都市、社会、通勤、歴史の回顧、この島で生まれ育ったすべての詩が野生そのものと言えるのだ。
約200篇からなる詩を原型とする作品は5部から成る。1部「言葉のこだわり」には短いが鋭利な短篇詩が収録、刃物のようなきらめきを放つ。2部「雲の心情」では社会で奔走して得た随想が綴られる。3部「月の煩悩」は月の光に照らされるあたかも禅ににた境地を語る。4部「鬱金の散策」は冷めた心から出たエレガントなアイロニー。5部「静かなる高揚」は瞑想の中にまどろみそして冴えわたる詩の修練の集大成である。

TAIWAN LITERATURE AWARDS

ECUS PUBLISHING HOUSE
木馬文化事業股分有限公司

Lee, Chin-Wen
李進文

李進文、1965年生まれ。台湾・高雄出身。現職は遠足文化編集長で、これまで記者、明日工作室副社長、聯合文学出版社編集長、台湾商務印書館編集長を歴任。著書に『野想到』『更悲観更要』『静到突然』『長得像夏卡爾的光』『除了野薑花、沒人在家』『雨天脱隊的点点滴滴』『不可能；可能』『一枚西班牙銭幣的自助旅行』、エッセイ集『微意思』『如果MSN是詩、E-mail是散文』、絵入り詩集『油菜花写信』、動画童詩絵本『字然課』、美術詩集『詩与芸的邂逅』がある。時報文学賞、聯合報文学賞、中央日報文学賞、台北文学賞、呉濁流文学賞、林栄三文学賞、2006年度詩人賞、文化部デジタル金鼎賞を受賞。

18 『もしウミツバメになれたなら ― 日本統治と戒厳令の時代の台湾モダンダンスの物語（仮訳）』

《假如我是一隻海燕：從日治到解嚴，臺灣現代舞的故事》

If I Were a Petrel: The Story of Modern Dance in Taiwan from Japanese Colonial Period to the Lifting of Martial Law

Lin, Chiao-Tang / 林巧棠

誰もが自分の身の自主権を持っていると思いがちだが、実のところ慣習、伝統、法律などが我々の自由を制限している。一方、芸術の中核とも言えるダンスは身を持って表現する一種の言語だ。体の動きで最も直接的に真実の感情を表現できる。この意味においてモダンダンスはかなり先進的だと言える。モダンダンスの出現により古典バレエの審美感が打破され、より自由により奔放に感情や思想を表現できるようになったからだ。自由へのあこがれと反骨精神から生まれたモダンダンスは20世紀の欧米で生まれ、多くの共感を得つつ日本、そして朝鮮に伝わり、台湾に根を下ろした。

If I Were a Petrel: The Story of Modern Dance in Taiwan from Japanese Colonial Period to the Lifting of Martial Law

もしウミツバメになれたなら ― 日本統治と戒厳令の時代の台湾モダンダンスの物語

TAIWAN LITERATURE AWARDS

本作品はたおやかな文章で台湾のモダンダンスの歴史を描いている。政治と文化だけでなく、台湾人が身体の自由を追い求めた歴史をたどる。「もしウミツバメになれたなら」は、雷石榆が愛妻、蔡瑞月にささげた詩で、これが後にモダンダンスに改編された。暴風と荒れ狂う波をぬって飛ぶウミツバメは蔡瑞月だけでなく、台湾のモダンダンスの発展に尽くしたダンサーたちを象徴している。台湾のモダンダンスは自由、解放、抵抗という近代思想を基盤に、大日本帝国の植民地時代、戦後の国民党による支配と戒厳令、冷戦を背景としたアメリカの勢力下にあって、様々や圧力や困難をくぐり抜け、ついに台湾独自の特色を持つ芸術に昇華した。

Acropolis,
an imprint of Walkers Cultural Enterprise Ltd.
衛城出版/遠足文化事業股分有限公司

Lin, Chiao-Tang
林巧棠

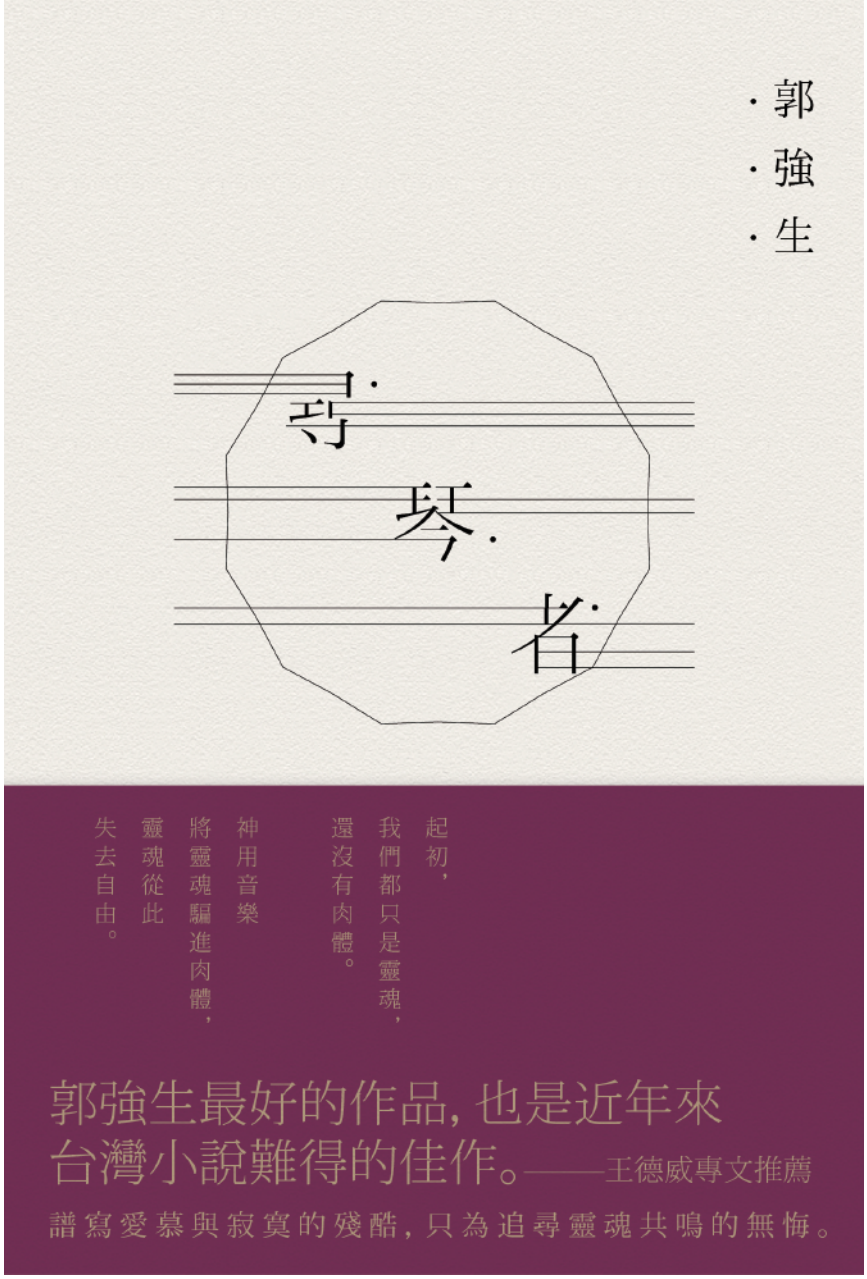
林巧棠、新竹出身。台湾大学外国文学部学士、台湾大学台湾文学大学院修士。台北に在住。半人前のダンサー、新人翻訳者。女性であることについて言いたい事がたくさんある。ダンス、体と心の相互作用について研究。時報文学賞最優秀賞、林栄三文学賞、台湾大学文学賞を受賞。

19

『楽譜の果てに（仮訳）』

《尋琴者》The Memoir of A Piano
Kuo, Chiang-Sheng / 郭強生

稀に見る音楽的才能に恵まれたピアノ調律師は、若い頃に失恋しピアニストになる夢を捨て、その時以来時が止まったままだった。



The Memoir of A Piano

楽譜の果てに

亡き妻が残したピアノを通して調律師と知り合い、ビジネスパートナーとして中古ピアノの売買を手掛けることになり、二人でピアノを仕入れる旅に出かける。旅の途上での出来事やそれを映し出す心の機微はまるでピアノの孤独なメロディーのようだった。二人はこうしてビジネスパートナー以上の関係になってゆく。ハーバード大学で教鞭を執る王徳威教授はこの作品を郭強生の最高傑作と称える。作品全体に音楽とピアノへの愛が溢れ、物語も交響曲のように展開してゆく。2020年台湾文学金典賞、OpenBook2020年度好書賞の受賞作品。

Kuo, Chiang-Sheng
郭強生

台湾大学外国文学部卒業、米国ニューヨーク大学（NYU）演劇学博士。帰国後、国立東華大学で教鞭を執り創作・英語文学大学院の創設を援助。現在、国立台北教育大学言語・創作学部教授。作品『非関男女』が時報文学賞戯曲最優秀賞を受賞。長篇小説『惑郷之人』が金鼎賞受賞（日本語版は2018年に出版、邦題：惑郷の人）。『夜行之子』『断代』が台北国際書展大賞の選考対象となる。短篇小説『罪人』が2017年九歌年度小説賞受賞。エッセイ集『何不認真来悲傷』が開巻好書賞、金鼎賞、台湾文学金典賞を受賞。『我将前往的遠方』が金石堂年度十大影響力好書賞受賞。
文学と文化に関する様々な分野を愛する。独特の文章美学を持ち、落ち着いた雰囲気の中に、鋭さと華やかさを表現する。小説と戯曲のほか、エッセイの出版作品『来不及美好』、日記文学『2003／郭強生』、評論文集『如果文学很簡単、我們也不用這麼辛苦』『文学公民』『在文学徬徨的年代』などがある。

20

『性の意識史（仮訳）』

《性意思史》Stories to Say Sex

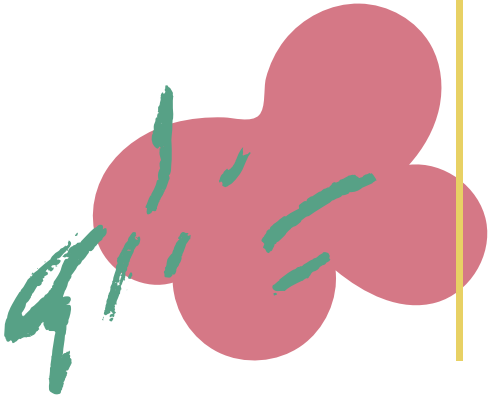
Chang, Yi-Hsum / 張亦絢

『性の意識史：張亦絢短篇小説集』には「淫婦は一日にしてならず」「43階建て」「性の意識史」「風流韻事」（いずれも仮訳）の4篇の小説が収められている。すべてセックスに関する物語だ。ただしこの本の中で性別は2つだけでなく、セックスも「堂々と話せるもの」と「ひそひそと語るもの」の2種類だけに大別されているわけでもない。性の多くの面が語られ、体に関する記憶と政治までもが、小説に許される率直さをもって描写される。作者は臆することなく「性」を語るが、決して読者を嫌な気持ちにさせることのない機知に富んだ繊細な作品だ。

Chang, Yi-Hsum
張亦絢

台北・木柵出身。パリ第三大学映画・視聴覚大学院修士。少女時代にリーダーズダイジェストに投稿し掲載される。デビュー小説は高校生の時に自立晩報に投稿し掲載される。1996年、短篇小説『淫人妻女』が聯合文学小説新人賞推薦賞を受賞。

早期の小説作品は同志文学選と台湾文学選に入選。著書に長篇小説『愛的不久時：南特/巴黎回憶録』（国際書展大賞入選）『永別書：在我不在的時代』（国際書展大賞入選）、短篇小説集『壊掉時候』『性意思史』（Openbook閱読誌・鏡文化年度好書賞）、中篇小説集『最好的時光』、書評集『小道消息』、推理小説評論集『晩間娯楽：推理不必入門集』、映画評論集『看電影的欲望』がある。映画シナリオ『我們沿河冒険』が国片優良劇本佳作受賞。『幼獅文芸』のコラム「我討厭過的大人們」が金鼎賞最優秀コラムに選ばれ、エッセイ集『我討厭過的大人們』に収録。2019年、国立台北芸術大学の指導作家を担任。『BIOS Monthly2019』の月間映画評論コラム「麻煩電影一下」の作者。宮部みゆき、ハウメ・セラ・カブレ、太宰治、陳柏煜、林奕含などの作品の解説がある。



『群像（仮訳）』

《群像》Group Portrait ー 吳岱穎

Wu, Tai-Ying

21

吳岱穎が10年の歳月をかけて懸命に生きる命の様を凝縮した52篇の詩は4部から成っている。

Group Portrait
群像

TAIWAN LITERATURE AWARDS

1部「群像少年」：かつて作者と多くの時間を共にした15人の少年たちが描かれる。彼らは他の人と同じでありたいと願うものの人とは全く違っていた。少し衝撃を加えただけで卵が割れ中身が出てしまうように、彼らはいとも簡単にその内面を表出した。チェゲバラなど知らないくせにそのシャツを着たがる少年A。ピアニストでもある哲学少年B。詩の中で生きる少年C。家から追い出された少年D。彼らと共に同じ時を過ごし、そして彼らはそれぞれの道に進んで行った。

2部「病識」：年齢とともに衰えを見せる体と心の記録。脊椎と気管支の疾患の痛みと苦しみは耐えがたい挑戦となる。肉体による魂への反乱、その心境が綴られた。

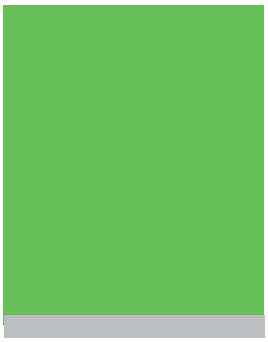
3部「苦路」：言葉、現象、論理、無限、夢、宇宙、自我、生活の探究の詩。どんな道のりにも苦難があり、思い出したくない記憶がある。それを避けることはできず、黙って飲み込むしかない。それが次第に身体の一部となり人生に消化されるのだ。

4部「譫妄」：人生には笑いも必要だ。ナンセンスも清涼剤として役立つことがあるはずだ。

Rye Field Publications 麦田出版

Wu, Tai-Ying

吳岱穎



呉岱穎、1976年花蓮で生まれる。花蓮高校、師範大学国文学部卒業。花蓮県立花崗中学校で教鞭を執り、現在は台北市立建国高校で任職。

高校時代に楊牧に啓発され詩作を始める。大学時代には師大噴泉詩社に在籍、積極的に創作を学ぶ。花崗中学校での在職期間に詩と音楽性の関係に気づき詩作の世界観を再構築する。

『C'est La Vie——在島上』が時報文学賞新詩最優秀賞を受賞。この時期の作品は詩集『明朗』に収録されている。

台北建国高校では紅楼詩社の指導に当たり、音読詩を多く創作、また学生を指導する中で詩意の存在と表現の鍵を学ぶ。林栄三文学賞新詩最優秀賞を受賞、詩集『冬之光』を出版。この時期の作品には詩の音読を通して生活の本質と内在する思想の探究が反映され、詩意という顕微鏡で世界の本質に迫ろうとの試みが見られる。

2019年末、詩集『群像』を出版、人間の様々な面を描いたもので人生の円熟が反映される作品である。

著書には古典の現代文解説『找一個解釈』、現代詩鑑賞注釈書『更好的生活』（いずれも凌性傑との共著）がある。孫梓評と『国民新詩読本』を共編。凌性傑と『青春散文選』『青春小説選』を共編。『2017飲食文選』を編集。

『欠陥だらけの人間もどき（仮訳）』

《瑕疵人型》Human Glithces ー 林新惠

Lin, Hsin-Hui

22

『欠陥だらけの人間もどき』は2020年5月に出版された林新惠の最初の短編小説集である。これは台湾文学賞金典賞と蓓蕾賞の受賞作品となったが、新鋭作家である林にとってこれは大きな栄誉であり励みとなった。

Human Glithces
欠陥だらけの人間もどき

本書は17の短編小説から成っているが、これを一言で「SF小説」とするには語弊があるかもしれない。それ以上の深みを持っているからだ。写実的な筆致の中にロボットと変わらない人間たちの世界が展開する。それは超現実的なディストピアなのだ。その世界は読者すべてに、正常な男または女とはどのようなものなのか、我々が当たり前のようにみなしている感情や悩みとは一体何なのかという問いを投げかける。そして人間とロボットでは果たしてどちらの方が冷淡で孤独なのかについて考えさせる。

China Times Publishing Company
時報文化出版企業股分有限公司

Lin, Hsin-Hui
林新惠

林新恵、1990年生まれ。現在（2020年）、政治大学台湾文学大学院博士課程を履修中。林栄三文学賞、打狗鳳邑文学賞を受賞。修士論文「合成本体：台湾現代小説のサイボーグ的分析」が台湾文学館年度傑出修士論文賞を受賞。『聯合文学』誌の編集を担当。短篇小説「Hotel California」が台港芸術家SF創作実験プロジェクト「暗流体」により『即溶生活：未来記憶的想像』に収録。テクノロジー人文学と生態人文学を研究。

林の研究と創作では常に境界線の移動と弁証が中心的主題となっている。人の体は非人間的な部品とどのように接合させたらよいのか。これは遠い未来の物語のようだが実は現実生活の話なのだ。彼女の作品はSFや超現実の世界という枠組みの中で絶えず読者に深淵な問題を問いかける。社会科学と自然科学が、人間というものが期待していたほどの「人間性」を持っていないことを明らかにした今、人間性の特徴とされる心、認知、行動、感情などは、単に機械と同じ「アルゴリズム」の結果にすぎないのか。もしそうならそのアルゴリズムはどのようなものなのか。

林のデビュー作はそれに答えている。人間とは欠陥だらけの回路で、デバッグしたくてもできないアルゴリズムで作動するものなのだと。

『台北家族 一腫れ物（仮訳）』

23

《台北家族，違章女生》A Typical Girl ― 李屏瑤

Lee, Pin-Yao

台湾の女性に対する固定概念を打ち破ろうとした作者の自己成長を綴ったエッセイ。現代社会の若いマイノリティの苦悩を描く。

「私が女だとわかった途端、そして30を超えても独身なのを知った途端、人々の目には非難の色が浮かぶ。私はまるで一族の恥、そして腫れ物。でも腫れ物として、周りの両極端と自分の成長を書こうと思う。」――李屏瑤

A Typical Girl
台北家族ー腫れ物

女があるべき姿とは何?身だしなみや行儀作法がなぜ決められているの?なぜ優等生じゃなきゃいけないの?スカートの丈、髪の長さ、歩き方、座り方、下着までがすべて制約される。少しでも人と違ってはいけないの?
三世代が同居する大家族で、子供の弁当の中で一番大きくて美味しいお肉は必ず、男の子であるいとこのもの。冷蔵庫のスイカを盗み食いしても、男の子なら腕白ですむが、女の子はそうはいかない。叱られ叩かれ正座させられる。学校でも髪を短く切って大声を出せば、「おとこおんな」とからかわれる。女はおとなしく、男より一歩下がっていればそれでいいのか。セクシュアルマイノリティは猜疑と嘲笑の地獄のような日々を長く耐えてやっと曙光が少し見えるようになった。
不眠症に悩まされる作者は猫だけに慰めを見出す。本書はその成長の過程、日々の想い、読書の感想を綴るとともに、すべて男中心に回る家族や学校という社会機構にメスを入れる。いつも残り物しか与えられない女性たちの出せない声が文章となり居場所を与えられた。作者は自分を「一族の恥、腫れ物」として捉え、社会に向かって質問を提起し、苦しんで答えを出そうとする。その一歩一歩に真実の響きが感じられる。

Lee, Pin-Yao
李屏瑤

1984年出まれ、台北・蘆洲出身。執筆・出版関連業務に従事。中山女子高校、台湾大学中国語文学部、台北芸術大学戯曲芸術創作大学院修了。2016年2月、デビュー作『向光植物』を出版。2017年戯曲『無眠』を出版、舞台劇脚本「家族排列」が台北文学賞優等賞を受賞。2018年、「同志百工図」が台北文学年金に入選。2019年エッセイ『台北家族, 違章女生』を出版。社会運動に参与し、前線で声を上げ、後方で著作を行う。最近は机の前にできるだけ長くいるように努めている。
李屏瑤いわく「かつて自殺した二人の女性が残した遺書に、『人であるのは辛いことです。私たちが苦しいと思うのは、多くの人が考えるように挫折やプレッシャーではなく、社会で生きてゆくという本質そのものが私たちに合わないということなのです。』とあった。自分も彼女たちと同じ年まで生きたが、今、彼女たちの言葉にこう加えたい。『社会で生きてゆくという本質そのものが私たちに合わない。だからこの社会を変えるのだ』と。」

『猫とワラビ（仮訳）』

24

《貓蕨漫生掌紋》
Pretentious Like A Cat, Soft Like A Fern
— 李筱涵

Lee, Hsiao-Han

ジェネレーションYの世代に属する少女による、家族への思い、不穏な世界と現実社会への決意を綴ったエッセイ集。

Pretentious Like A Cat, Soft Like A Fern

猫とワラビ

妹が生まれたあの年から、姉となった作者は早く大人の仲間入りをすることが求められる人生を歩むことになった。
妹は難病に悩まされ、家族の中の女性たちはあらがうことのできない運命の中でもがきながら生きてゆくことになる。
Y世代に属する作者は、自分の成長は社会の要求する成長とずれているのではないかとの思いに絶えず苛まれる。そして将来に対する苛立ちと不安を覚える。
作者は著作という手段を通して、幼い頃の記憶をたどり家族が自分に与えた影響は何だったのかと考える。またジェネレーションギャップの狭間で、たとえ現実社会と妥協せざるを得ないとしても自分を失わない方法を模索する。
優しくしかも強く生きてゆきたいから。

Route Culture, Ltd. 有鹿文化事業有限公司

Lee, Hsiao-Han
李筱涵

国立台北教育大学語文創作学部学士、国立台湾大学台湾文学大学院修士。
現在(2020年)国立台湾大学中国語文学大学院博士課程履修。
林栄三文学賞散文最優秀賞を受賞。
詩、エッセイ、インタビュー記事が新聞や文学雑誌に掲載。
著書に『廖玉蕙老師的経典文学:聴説書人講故事』、エッセイ集『猫蕨漫生掌紋』がある。

『雨客と花客（仮訳）』

《雨客與花客》Dream into Rain on Flower
ー周芬伶

Jhou, Fen-Lin

25

周芬伶が詩作のような落ち着きと、狂おしいほどの情熱をもって自分と他人を見つめたエッセイ。
平凡な日常生活、激動の「香港逃亡犯条例改正案反対デモ」、新型コロナなどその話題は様々な分野にわたり、超越した視点で日常を語り、現実と非現実の狭間で苦悩する。

Dream into Rain on Flower
雨客と花客

キャンパスの隅の古い家屋でひっそりと日々を送る作者。そこには人間から猫まで様々な客が訪れる。ある時は論議し、ただ沈黙の時を過ごすだけの客もいる。相手の心の中に自分を見、深淵な一体感を体験する。
微雨が降り花咲く中で茶を淹れ香を焚き著作にいそしむ筆者は、静かな竹林を散策し人間の愚かしい営み、生きるということの美しさと悲哀について思いを馳せる。訪問客が去った後の寂寞を伴う静かな余韻から生けるものすべてが持つ情緒を感じる。書くことで愛を求め、心の琴線に触れることができる。筆者にとって自然のささやきに注意深く耳を傾けることは啓発という糧を得る手段なのだ。

YinKeWenXue 印刻文学生活雑誌出版股分有限公司

Jhou, Fen-Lin
周芬伶

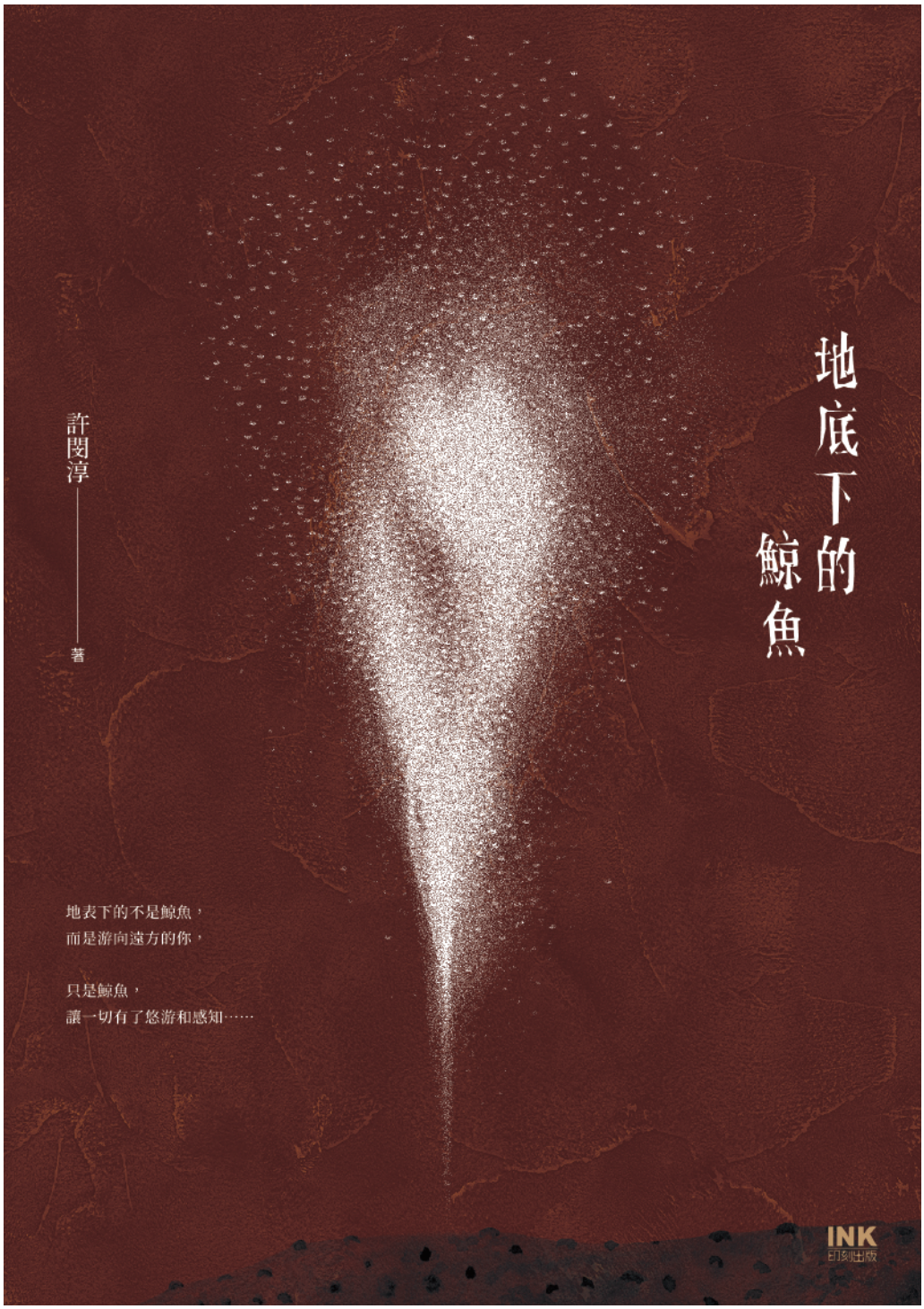
屏東出身。政治大学中国語文学部卒業、東海大学中国語文学大学院修士、東海大学中国語文学部で教鞭を執る。エッセイ集『花房之歌』が中山文芸賞を受賞、『蘭花辞』が第1回台湾文学賞散文金典賞を受賞。『花東婦好』が2018金鼎賞、台北国際書展大賞を受賞。作品はエッセイ、小説、文芸論など多種に上る。近著には『花東婦好』『湿地』『北印度書簡』『紅咖哩黄咖哩』『龍瑛宗伝』『散文課』『創作課』『美学課』などがある。

26

Hsu, Min-Chun

『地下の鯨（仮訳）』

《地底下的鯨魚》許閔淳
The Whale Under Ground



The Whale Under Ground

地下の鯨

エッセイ集『地下の鯨』は作者と家族、そして友人や見ず知らずの人々との関わり合いを描くことを通して本当の自分を見出そうとする作者の苦闘の結晶である。エッセイ集のタイトルともなったエッセイ「地下の鯨」は作者の青春時代の作品である。そこでは夜中に運動場を走ることから、自分と回りを見つめる作者が描かれる。運動場の傍らにある噴水は地下の鯨が吹き上げる潮に違いないと思い始める作者は、自分も地下にいる鯨と同じだと考えるようになる。

TAIWAN LITERATURE AWARDS

INK Literary Monthly Publishing Co .,Ltd.
印刻文学生活雑誌出版股分有限公司

Hsu, Min-Chun
許閔淳

1991年生まれ。夢の中に真実があり、真実の中に夢があると信じている。梁実秋文学賞、教育部文学賞、打狗文学賞、中興湖文学賞、東海文学賞、西子湾文学賞、中区写作賞を受賞、蕭毅虹文学奨学金を得る。

27

Chen, Shu-Yo

『雲山（仮訳）』

《雲山》陳淑瑤
Clouds Around the Mountain

山際の土地に住む母と娘の物語。4人だった家族が今は年老い足を病む母と、失業し家政婦の仕事で生計を立てる娘の二人だけになってしまった。平凡に見える日々の中にも心をかき乱す出来事が起こり、それらがさりげない筆致で綴られる。二人は互いの関係維持と心のバランスのために週に一日、定期的にそれぞれの時間を設け、それぞれの場所に出かけて行く。窓から見える見慣れた雲のかかる山は、平穏に見えるが一日として同じ表情を見せることはない。雲はある時には厚くのしかかり、そして消え去ってゆく。山の小道はそこから逃れるための秘密の出口でもあるかのようだ。

Clouds Around the Mountain

雲山

TAIWAN LITERATURE AWARDS

INK Literary Monthly Publishing Co .,Ltd.
印刻文学生活雑誌出版股分有限公司

Chen, Shu-Yo
陳淑瑤

1997年初めての小説『女児井』が時報文学賞小説最優秀賞を受賞、聯合報文学賞小説賞を2回受賞する。1999年短篇小説集『海事』を出版、2003年の作品『沙舟』が呉濁流文学賞を受賞。2004年に短篇小説集『地老』を出版。2006年エッセイ集『瑤草』を出版。2009年最初の長篇小説『流水帳』を発表し、台北国際書展大賞「小説類・年度之書」、第34回金鼎賞図書類文学賞を受賞。

『タンプラインで山を背負う：ガイドとポーターそして森林巡視員の物語（仮訳）』

《用頭帶背起一座座山：
嚮導背工與巡山員的故事》趙聰義（沙力浪）
Carrying Mountains with their Tumpline
the Story of Bunun Mountain Guides,
Porters, and Forest Patrols

有一群人在山林中，
努力的工作著、努力的生活著。

這群在山上的族人們，用腳走出自己的路，
用頭背帶背出自己的生命經驗，
說出祖先的歷史。

真誠推薦

孫大川 政治大學臺文所專任副教授
李根政 地球公民基金會執行長
瓦歷斯・諾幹 作家
乜寇・索克魯曼 作家

Carrying Mountains
with their Tumpline -
the Story of
Bunun Mountain Guides,
Porters,
and Forest Patrols

タンプラインで山を背負う：ガイドとポーターそして森林巡視員の物語

山岳民族ブヌン族である作者が2000年に父祖の地に戻り山に入った時、山の名前や村の位置すらも曖昧で、森林巡視員やガイドについては聞いたことすらなかった。20年にわたり山と森林と生活を共にするにつれ、山岳民族の生活、自分の足で道を踏みしめ切り開いてきた歴史、タンプラインで生活そのものを運んだ経験について知るようになった。これは父祖たちの歴史と物語である。山での生活は作者の生き方を変えた。また山と自分について、さらには自分の民族の歴史についても考える機会をもたらした。

山で働くガイド、ポーター、森林巡視員は自分の力を父祖の山に捧げた人々である。歌を歌い狩猟者の装いで山を知り尽くした彼らは、生態保護と研究者の影の功労者であり、登山者の重要なパートナーでもある。

作者はブヌン族作家、田雅各と同様、猟銃の代わりにペンで民族を守り、その文化を記録したいと願っている。これは台湾の奥深い山で黙々と働く人々のドラマである。

TAIWAN LITERATURE AWARDS

Chien Hsing Publishing Co.,Ltd
健行文化出版事業有限公司

Salizan Takisvilainan
趙聰義（沙力浪）

花蓮県卓渓郷中平（土地の人々はこれを今でも「なかひら」と発音する）部落出身のブヌン族の詩人兼作家。山岳民族の情感と哀愁について執筆する。桃園の元智大学中国語文学部に学んだ後、花蓮に戻り東華大学民族発展大学院で履修。深く愛する自分の村、土地、民族について記録するため、村にブヌン語出版ワークショップを設ける。また老人たちの知恵を記録し、消えゆくブヌン文化の保存に努める。また山小屋の管理、登山ガイド、ポーターなどの仕事にも従事し山の中での生活と創作に努める。
その作品は原住民文学賞、花蓮県文学賞、後山文学賞、教育部族語文学賞、台湾文学賞を受賞、著書に『笛娜的話』『部落的燈火』『祖居地・部落・人』『用頭帶背起一座座山：嚮導背工与巡山員的故事』がある。

29

Chang, Hsin-Chieh

『うちの猫見せてあげる（仮訳）』

《借你看看我的貓》張馨潔

Take a Look at My Cats

これは張馨潔が母に書こうとした手紙であり、10年間著作に没頭した自分に対する懺悔の書でもある。また愛猫ミミとバンバンに対する愛の告白でもある。ちょうどキツネが星の王子様になついてしまったように、作者も猫のミミとバンバンになついてしまった。二匹は作者の親友であり家族で、互いに相手を必要する関係になってしまったのだ。

Take a Look at My Cats

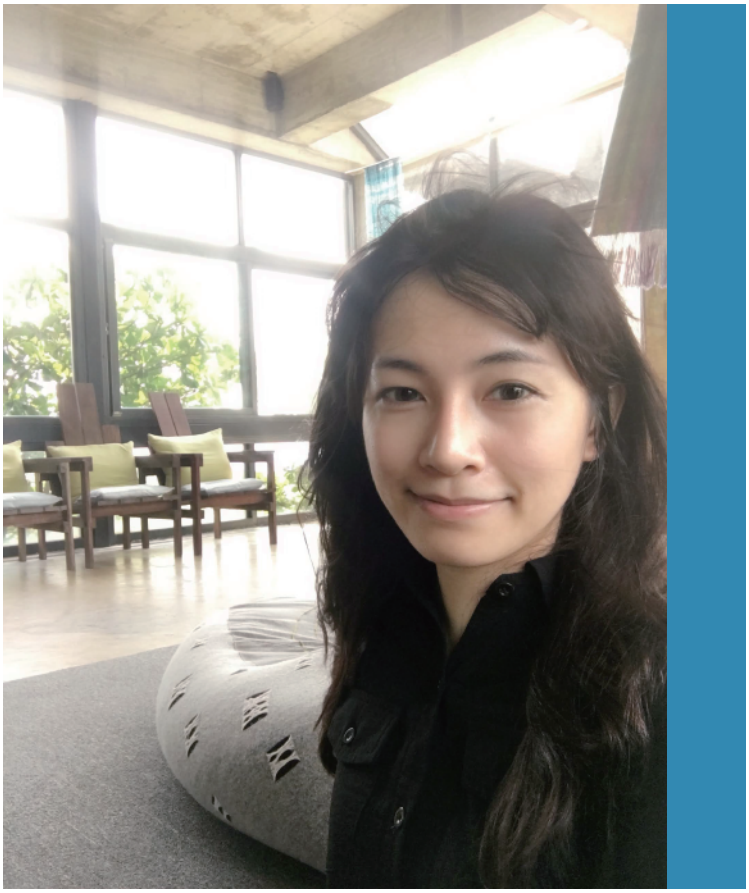
うちの猫見せてあげる

離別はこの家の宿命なのだろうか。母は「愛」であると同時に「傷」でもある。作者はこの屈折した成長の過程を「穴掘りの練習」に綴った。精緻な文章の中に悲壮感が溢れ、まだ固まっていないかさぶたをはがすように無常な人生のしがらみと愛憎を直視する。「自分だけの年号」は離別し夢の中だけで会える母について語る。夢の中での質問「そんなに私が怖いの？」の答えは得られない。「大人ためのディズニー攻略」は現実と童話の狭間で、どれだけ時間をかけても永遠に攻略できない大人の世界の話だ。

人生の重大な局面で沈黙していたからと言って言いたいことがないわけではない。離別したからといって捨てられたわけではない。張馨潔は抑制された軽快さで命の奥深い所に流れる伏流を掘り当てる。家族の記憶を再構築する試みは過ぎ去った過去を蘇らせるかもしれないから。

TAIWAN LITERATURE AWARDS

Chiu Ko Publishing Co.,Ltd
九歌出版社有限公司



Chang, Hsin-Chieh
張馨潔

東海大学中国語文学部、彰化師範大学国文学大学院履修。2.5匹の猫を飼い、人よりも動物を愛する。2018年世界華文星雲賞散文最優秀賞、中興湖文学賞、東海文学賞、東海大学文芸創作営小説最優秀賞を受賞。著書に『借你看看我的猫』があり、作品が各種新聞や雑誌に掲載されている。

Hsiung, Yi-Ping

『俺たちのロックンロール（仮訳）』

《我們的搖滾樂》熊信淵（熊一蘋）

Welcome to Taiwan, Rock Music

これは1950年から1980年までの間に台湾でロックンロールがいかにして発展したかを物語る本である。約30年にわたり自由が制限されていた年代の台湾を語るには、日本、中国、米国といった世界の大国と、第二次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争といった出来事の関連性をひも解く必要がある。その時代の台湾には、「中華商場」、米軍クラブ、ナイトクラブ、ダンスホール、洋風レストランが出現し、洋画、米軍ラジオ局、海賊版レコード、長髪禁止令、音楽の検閲制度など他では見られない文化が生まれた。こうして整えられた歴史の舞台で、「ロックンロール」をテーマとする時代劇が演じられた。

台湾のロックンロールの物語はあくなき自由追求の物語でもある。台湾の若者はロックンロールを通して自由に触れ、自由を学んだ。そして自由を勝ち取った時に当時の台湾の自由が大きく制限されていることに気づいた。ロックの神髄は反抗の精神だとまことしやかに唱える向きもあるが、それはあまりにも浅い。台湾ロックンロール物語を理解すれば、台湾人の吸収と転化能力に驚くことだろう。台湾はこれまでに数多くの強国の文化圏による洗礼を受けて来た。それぞれが新たな束縛であり、新たな養分ともなった。今享受しているすべては、実は前人たちが吸収した養分であり、束縛を振り切った時に台湾文化が生まれたのだ。

Welcome to Taiwan,
Rock Music

俺たちのロックンロール

TAIWAN LITERATURE AWARDS

Guerrilla Publishing Co., Ltd.
游擊文化股分有限公司

Hsiung, Yi-Ping
熊信淵（熊一蘋）

熊一蘋、本名は熊信淵。1991年生まれ、高雄・鳳山出身。台北に長く住み、台湾大学台湾文学大学院修士。大学時代から文学作品を発表し、林栄三文学賞、聯合報文学賞などを受賞。大学院時代には作品の発行を自ら手がけ、ノンフィクションにも挑戦。共著作品に『暴民画報：島国青年倶楽部』『百年不退流行的台北文青生活案内帖』『沈舟記：消逝的字典』『親像鳳梨心：鳳山代誌』があり、独自の作品として『超夢』『#雲端発行』『結束一天的方式』『廖鵬傑』がある。現在は生計を立てるために苦闘中。